2010年12月14日/読売新聞

外部委託　打ち切りへ

西宮市職員用ポット給湯・洗浄　「市民の理解得られない」

　西宮市は13日、本庁舎・支所などにある職員用ポット78個の給湯と洗浄作業について、2011年度から外部委託を打ち切る方針を明らかにした。12項目の庁舎管理業務（委託料総額約1億2000万円）の一環で「職員の業務効率化のため」として、少なくとも1997年度以降続けてきた慣例だが、「市民の理解を得られない」と見直しを決めた。

　この日開かれた市議会一般質問で、澁谷祐介市議（にしのみや未来）が「わざわざ、外部委託する必要があるのか」とただしたのに対し、掛田紀夫・市総務局長が答えた。

　職員用ポットは職員が休憩時などに利用している。来年度以降は職員自らが行うか、ポットを廃止するか、検討する。給湯と洗浄の委託料について、市は「発注の積算内容は公表できない」として明らかにしていない。

　市では、市議へのお茶出しも庁舎管理業務に含め、年間約1000万円の委託料を支出していたことが問題となり、来年度から取りやめる方針を示している。

--------------------------------------------------------------------------------

2010年12月15日/毎日新聞

西宮市　職員用のポット給湯外部委託業務廃止へ

西宮市が外部委託している職員用ポットへの給湯や洗浄などの業務を廃止する方針であることが分かった。給湯は、今年度約1億2千万円で契約された庁舎管理業務の一環だが、同市は個別の金額は明らかにしていない。

　市によると、ポットは業者側が用意し、本庁舎や教委事務局などに計78本を置き、毎朝洗浄後に湯を入れて準備していた。

庁舎の各フロアに給茶機が設置されていることや、ペットボトルを所持している職員が増えたことなどから廃止を決めた。

2010年12月14日/神戸新聞

業務委託の給茶・ポット設置　西宮市が見直しへ

来年度から

西宮市は13日、業者に委託している9庁舎の総合管理業務のうち、ポットの設置などを来年度からやめることを決めた。

この日の市会本会議一般質問で、市当局が明らかにした。

廃止を明言したのは、本庁舎など３庁舎にあるポット78本の設置▷環境衛生課・旧車両課庁舎での給茶業務▷同庁舎の2カ所ある風呂場のうちの1カ所の使用。

9庁舎総合管理業務として、清掃や案内、設備の保守などを一括で委託しており、本年度は日本管財が約1億2千万円で落札している。

ポットは、受託業者側が用意、毎朝洗って湯を入れておき、職員が利用していた。今後は必要な場合、個別に準備するという。

市はほかに、5庁舎に計26台設置されている給茶機の縮小、宿日直のあり方なども検討していくとしている。

（金山成美）

2010年12月14日/朝日新聞

西宮市、「給湯待遇」を廃止

　兵庫県西宮市は13日、市庁舎各階の給湯室にある計78本のポットに業者がお湯を毎日入れて回る委託業務を廃止することを明らかにした。給湯室には13年前から湯や茶が出る自動給茶機が計26台あり、職員への過剰な待遇にあたると判断したという。

13日の市議会本会議で澁谷祐介市議が指摘し、市側が回答した。市庁舎の給湯業務をめぐっては、市議らに茶を出すために議会棟に3人置く委託業務を来年度から廃止することがすでに決まっている。

市施設保全管理グループによると、毎年度、市庁舎の清掃や電気設備保守などを一括して指名競争入札にかけ、約1億2千万円で委託。この中に「ポットの洗浄、水切り、乾燥を行い、衛生的に処理し、白湯（さゆ）を注入する」という「白湯給湯業務」が30年前からあり、業者が毎日、各給湯室でポットに新しい湯を入れて回っていた。

澁谷市議が調べたところ、ポットは本庁舎（地上8階、地下1階）に63本、南館（地上３階）に１０本、教育委員会庁舎（同）に5本。澁谷市議は「さらに給茶機を減らすなどすれば、100万円単位の支出が削れるのではないか」と指摘している。

（五十嵐聖士郎）